



軽防協ニュース速報

2018年第1四半期(1月-3月)の伝染病発生状況

2018年6月配信

(International Collating Centre からの情報)

アルゼンチン

報告事項なし。

オーストラリア

報告事項なし。

カナダ

馬伝染性貧血(EIA)

2018年1月1日から3月31日までの間、アルバータ州の2施設で3例のEIA陽性例が報告された。2例は2017年10月から同施設内で行っていた調査の中で判明した。発端となった症例はEIA感染と矛盾しない重篤な臨床症状を示し、検体採取後間もなく死亡した。疾病調査の検査結果よりさらに3例の陽性例（2017年11月1例、2018年1月2例）が確認された。さらにもう1例が、2018年2月にアルバータ州の別の施設で確認された。この症例は体調が悪く、検体採取後に間もなく死亡した。アルバータ州の2施設の症例間で疫学的な関連はみられなかった。疾病調査の活動は継続中である。診断は血清学的に行われ、CFIA（カナダ食品検査庁）のEIAリファレンスラボラトリーで実施された。

チリ

報告未着。

デンマーク

報告未着。

フランス

(馬感染症疫学監視ネットワーク RESEP からの情報)

馬伝染性子宮炎(CEM)

2018年1月30日、カルバドス県の施設にてCEMが1例報告された。同症例は15歳齢のアンダルシヤンの種牡馬で、交配前の生殖器スワブによって不顕性感染が確認された。同症例は2007年にフランスへ輸入され、これまでは自然交配には用いられていなかった。治療は既に開始されており、完治までに繰り返し検査を実施する予定である。

ウマヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による流産

2018年第1四半期の間以下に示す8件の発生が報告された。

- 2018年1月29日、オルネ県で1例のEHV-1による流産が確認された。2017年の11月中旬以降、この施設では3例の流産が発生し、4例目の本症例では発熱を認めた。確定診断は胎子組織を用いたPCR検査によってなされた。
- 2月16日、アン県で1例確認された。確定診断は胎子臓器を用いたPCR検査によってなされた。
- 2月22日、カルバドス県の牧場でワクチン接種された4歳齢のフレンチトロッター種1例において確認された。同施設には60頭の繁殖牝馬が繋養されていた。同施設で繋養されている別の1頭の繁殖牝馬でも流産が確認された。罹患馬の隔離や施設への検疫を含めた衛生管理が実施された。確定診断は胎子組織を用いたPCR検査によってなされた。
- 3月21日、ジロンド県の牧場でワクチン接種された8歳齢のサラブレッド種1例において確認された。確定診断は胎盤のPCR検査によってなされた。
- 3月23日、カルバドス県で1例確認された。確定診断は胎子組織を用いたPCR検査によってなされた。
- 3月25日、カルバドス県で1例確認された。確定診断は胎子組織を用いたPCR検査によってなされた。
- 3月26日、オルネ県の牧場で8歳齢のサラブレッド種1例において確認された。同施設には130頭の繁殖牝馬が繋養されていた。確定診断は胎盤を用いたPCR検査によってなされた。
- 3月26日、ムルト＝エ＝モゼル県の牧場でワクチン接種されていないフレンチサドルブレッド種において集団発生が確認された。確定診断は血液を用いたPCR検査(2例)と胎子組織を用いたPCR検査(1例)によってなされた。合計で30頭の繁殖牝馬のうち4例の流産が報告された。罹患馬の隔離や施設への検疫を含めた衛生管理が実施された。

ウマヘルペスウイルス1型 (EHV-1) 感染症

2月2日、エソンヌ県のフレンチ Trotter のトレーニングセンターで EHV-1 の集団発生が確認された。感染馬は発熱の症状を示し、隔離された。確定診断は鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

3月27日、メヌエ＝エ＝ロワール県において3例の集団発生が確認された。確定診断は鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

3月29日、サルト県で1例が確認された。

ウマヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による神経型疾患

3月22日、EHV-1 による神経型疾患がイル＝エ＝ヴィレーヌ県のスポーツホースにおいて1例確認され、発熱や神経学的症候群の臨床症状を示した。同馬は安楽死処分となった。同施設において他に7頭が EHV-1 陽性を示したが、神経症状は示さず、数頭が発熱したのみであった。罹患馬の隔離や施設への検疫を含めた衛生管理が実施された。他の馬は流行を防ぐために厳重に監視された。確定診断は血液を用いた PCR 検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス1型 (EHV-1) への警戒の呼びかけ

2018年3月30日、EHV-1 への感染リスクに対する警戒が呼びかけられた。2017年の第1四半期に比べて流行が著しく増加したわけではないが、特にサラブレッドやフレンチ Trotter、スポーツ種のような衛生状態の良好な馬やワクチン接種された多数の馬で臨床症状が認められたことから、通常とは異なる疫学状況であると考えられた。

ウマヘルペスウイルス4型 (EHV-4) 感染症

4件の非定型的な EHV-4 感染が確認された (いずれも1例ずつ)。発生地域はカルバドス県、ランド県、オルネ県とヴァール県であった。確定診断は鼻咽頭スワブ (3例) および血液 (1例) を用いた PCR 検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス4型 (EHV-4) による呼吸器疾患

10件の EHV-4 による呼吸器疾患が確認された (9件は1例ずつ、1件は2例)。発生地域はカルバドス県、シャラント県、シェール県、ランド県、オルネ県、パ＝ド＝カレー県、セヌエ＝エ＝マルネ県であった。感染馬は発熱や発咳、リンパ節の腫脹、鼻漏の症状を呈した。確定診断は鼻咽頭スワブ (8例) および鼻腔スワブ (1例)、鼻腔洗浄液 (1例) を用いた PCR 検査によってなされた。発症馬のうち3頭は娯楽のため、あるいは乗馬学校で飼養されていたサドルブレッド種で、3頭は種牡馬場のサラブレッドであった。他の4頭については品種の報告はない。

馬伝染性貧血(EIA)

2017年12月27日、馬伝染性貧血が1件、国立のリファレンスラボラトリーにて血液検体(血清診断)で確認された。感染馬はアルプ＝マリティーム県のアラブ種で、運動失調、無気力、削瘦の症状を呈した。

2018年1月18日、ヴァール県で1例が報告された。発生は疫学的に上記(2017年12月27日)の報告と関連していた。サドルブレット種の感染馬は安楽死となり、接触のあった1頭に対して適切な予防と管理措置が実施される予定である。発生はOIEに通知された。

ピロプラズマ病

フランスでは依然として風土病である。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

21件の発生が報告された(18件は1例、2件は2例ずつ、1件は3例)。発生地域はアリエ県、カルバドス県、コート＝ドール県、ドゥー県、オート＝ガロンヌ県、エロー県、アンドル＝エ＝ロワール県、マンシュ県、マイエンヌ県、モルビアン県、オワーズ県、オルネ県、ソーヌ＝エ＝ロワール県、サルト県、エソンヌ県、ヴァル＝ド＝マルヌ県であった。感染馬は発熱、リンパ節腫脹、鼻漏、膿瘍、食欲不振、発咳、嚥下障害の症状を呈した。確定診断は鼻咽頭スワブ、鼻腔スワブ、鼻腔洗浄液、喉嚢洗浄液を用いたPCR検査あるいは臨床症状のみによってなされた。

ドイツ

ドイツの症例や発生報告は、第1四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。

Dr.Boese 研究所有限公司 (HBLB の CEMO 認定研究所) による追加結果

馬伝染性子宮炎(CEM)

異なる6施設においてCEMの発生が7例で確認された。6例は種牡馬(アイスランド種4例、クォーターホース種2例)、1例が牝馬であった。確定診断は生殖器スワブを用いたPCR検査、培養検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス1型(EHV-1)による呼吸器疾患

EHV-1による呼吸器疾患の発生が25例確認された。確定診断は鼻咽頭スワブを用いたPCR検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

EHV-1 による流産が 4 例確認された。確定診断は悪露と肺の針吸引サンプルを用いた PCR 検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器疾患

EHV-4 による呼吸器疾患の発生が 4 例確認された。確定診断は鼻咽頭スワブを PCR 検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による流産

EHV-4 による流産が 1 例確認された。確定診断は悪露と肺の針吸引サンプルを用いた PCR 検査によってなされた。

ロタウイルス

1 施設の 2 頭の子馬でロタウイルスが確認された。臨床症状は下痢であった。確定診断は抗原 ELISA 検査によってなされた

腺疫 (*Streptococcus equi*)

異なる 2 施設において腺疫の発生が 2 例確認された。感染馬は咽頭後リンパ節や下顎リンパ節の膿瘍形成がみられた。確定診断は PCR 検査によってなされた。

香港

報告事項なし。

アイルランド共和国

ウマヘルペスウイルス (EHV) による疾患

EHV による疾患が 10 例報告され、キルデア州 (3 例)、リムリック州 (2 例)、モナハン州 (1 例)、マンスター (1 例)、オフアリー州 (1 例)、ティペラリー州 (1 例)、ウェックスフォード州 (1 例) であった。現在のところこれ以上の情報はない。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

腺疫は 53 例が報告され、43 例は PCR 検査によって確定診断がなされた。レンスター (7 例)、マンスター (45 例)、アルスター (1 例) で確認された。現在のところこれ以上の情報はない。

イタリア

報告未着。

日本

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2018 年 1 月 3 日から 2018 年 3 月 30 日の間に、異なる 13 施設において EHV-1 による流産の発生が 13 例確認された。9 例はワクチン接種済みであった。確定診断は北海道日高家畜保健衛生所および北海道胆振家畜保健衛生所で実施された。

マレーシア

報告未着。

ニュージーランド

報告事項なし。

シンガポール

報告事項なし。

南アフリカ

本報告は、南アフリカ馬獣医師協会との共同で最近開発された報告システムを用いた検査機関と民間獣医師からの報告に基づいている。症例数はこの報告を基にしており、政府機関による公式の数字を必ずしも反映していない。

アフリカ馬疫 (AHS)

国内のアフリカ馬疫汚染地域で、予想された季節的な増加が確認された。研究所の報告によると、フリーステイト州 (10 例)、ハウテン州 (7 例)、クワズール・ナタール州 (27 例)、ムプマランガ州 (2 例)、北ケープ州 (12 例)、北西州 (4 例)、リンポポ州 (1 例)、東ケープ州 (24 例) で発生が確認された。西ケープ州あるいは西ケープ州の AHS 管理エリアでは発生は確認されなかった。

ウマ脳症

ウマ脳症がクワズール・ナタール州 (48 例)、ムプマランガ州と北西州で 1 例ずつ、リンポポ州で 2 例が確認された。

ピロプラズマ病 (*B.caballi*、*T.equi*)

ピロプラズマ病がハウテン州 (31 例)、クワズール・ナタール州 (2 例)、東ケープ州 (2 例)、ムプマランガ州 (5 例) で報告された。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) 神経疾患

フリーステイト州の同一施設で 2 例の EHV-1 神経疾患が報告された。

韓国

報告事項なし。

スペイン

報告未着。

スウェーデン

報告未着。

スイス

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1)

2018 年 3 月に EHV-1 に感染した 1 例が確認された。確定診断は PCR によってなされた。発熱と神経症状を呈した。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) および 4 型 (EHV-4) による疾患

2018 年 3 月に EHV-1 と EHV-4 に感染した 1 例が確認された。確定診断は PCR によってなされた。発熱と疝痛を呈した。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による疾患

EHV-4 による疾患が 2 例確認された。確定診断は PCR によってなされた。1 例が発熱、もう 1 例は発熱と下痢の臨床症状を呈した。

トルコ

報告事項なし。

アラブ首長国連邦 (UAE)

報告未着。

イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第 4 四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。腺疫はイギリスの馬では風土病となっている。

アメリカ合衆国

クロストリジウム腸炎

ケンタッキー州において、*C. perfringens* A 型毒素による腸炎の発生が3例の子馬で報告された。

東部馬脳炎 (EEE)

4例のEEEが確認され、全てフロリダ州での発生であった。2例が1月、2例が3月の発生であった。

ウマヘルペスウイルス症候群

EHV-1 および EHV-4 による呼吸器疾患が複数の州で拡大しており、EHV-4 は子馬の呼吸器疾患を主に引き起こしている。EHV-1 による流産は2例報告された。EHV-1 の神経疾患は23件の発生が確認され、合計で27例が複数の州で報告された。

ウマヘルペスウイルス 2 型 (EHV-2) および 5 型 (EHV-5)

EHV-2 あるいは EHV-5 の発生が多く、しばしば呼吸器感染の臨床所見と関連していた。

ウマヘルペスウイルス 3 型 (EHV-3) 感染症

ケンタッキー州の痲疹の1例でウイルスが確認された。

馬伝染性貧血(EIA)

馬伝染性貧血はテキサス州で1頭が確認され、同馬は安楽死となった。

馬インフルエンザ

馬インフルエンザはアメリカにおいて風土病である。3州で確認され、1州では複数の発生が報告された。

ノカルジア型胎盤炎

Anycolatopsis spp.による3件のノカルジア型胎盤炎が確認された。2例がケンタッキー州、1例がノースカロライナ州であった。加えて、*Crossiella equi* 感染が4例ケンタッキー州で診断された。

馬増殖性腸症

Lawsonia intracellularis 感染による馬増殖性腸症がケンタッキー州の子馬で1例確認された。

ロドコッカス感染症

アメリカにおいて *Rhodococcus equi* 感染症は風土病である。多くの例で報告がなされていない。

サルモネラ症

2017 年第 4 四半期中に、血清型 B 群サルモネラの感染が 11 例確認された。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

アメリカにおいて腺疫は風土病であり、22 州で 65 件の発生が確認されている。10 州で複数の発生が認められている。

ベネズエラ

報告未着。